

茶ぐわくゆんたく

156



軍用一号線 大山

軍用一号線は、戦前の県道である「国頭街道」を、米軍占領下において、那覇軍港・普天間基地・嘉手納基地を結ぶ大動脈として整備されました。宜野湾でも伊佐から大謝名・宇地泊にかけて整備されました。写真は、大山から真志喜方面を撮影した写真です。中央に片側2車線の一号線があり、丘陵側にパイプラインが走り、高圧電線が軍道近くに建てられています。



▲大山の給油所近くから真志喜を望む 1964 (昭和 39) 年
写真右側の空き地奥が給油所で、左側にはガスボンベらしきものあり、この擁壁は現在も見られます。

す。看板は英字で表示され、米軍人相手の商売が多いことが伺えます。この大山の通りは、家具屋が軒を連ねており、米軍の中古家具の売買が盛んでした。現在も中古家具の売買取盛んですが、様々な業種が店を開けて、新旧入り混じりながら発展しています。

【問合せ】

市立博物館 ☎870・9317



▲現在の写真 片側3車線になり、歩道も整備されています。

ぎのわんの 歴史・文化遺産 を歩く

はじめに

今月は、西普天間住宅地区で実施している緊急発掘調査について、速報としてご報告します。

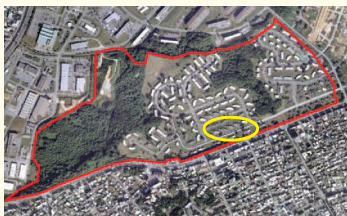
緊急発掘調査とは開発工事によって壊されてしまう遺跡を事前に調査し、遺跡の情報を詳細に記録して後世に残していくことを目的としています。

調査の内容

今回紹介する遺跡は「新城大道原第二遺跡」と「新城大道原第三遺跡」です。この遺跡は平成二十七年年度の調査で新たに見つかった遺跡になります。

どちらの遺跡もハウジングエリアだったため、建物の基礎が残っていたり、埋設管が残っていたりと状態がよいと言えませんでした。

しかし、新城大道原第二遺跡では調査区の北西側にグスク時代のもの



調査範囲 (黄枠)



新城大道原第三遺跡
溝の底から陶器片が出土



新城大道原第二遺跡北西側
黒い地層が古い遺物を含む

と思われる土器などを含む地層が一部残っていました。その地層を掘り上げ、もう何も出ないから調査を終了しようかという時に土器が頭を出しているのに気が付き、急いで掘り下げを行うという場面もありました。調査終了間際に何かを見つけてしまうのは、発掘調査あるあるなのかもしれません。

また、柱の跡や炉跡と思われるものも見つかっています。

新城大道原第三遺跡では近世・近代の溝などが確認できました。その溝の底からは近世・近代の陶磁器が出土しています。戦前の航空写真を見ると、この一帯は畑として使われていたようなので、耕作に伴うものであろうと考えられます。

今後、より詳細な遺跡の性格を明らかにするため、資料整理を進めていくこととなります。

【問合せ】文化課 ☎893・4430